

第3回今後の幼児教育・保育における市立幼稚園のあり方に関する検討会 議事要旨

- 1 日 時 令和4年12月19日(月) 13時00分～14時30分
- 2 場 所 神戸市総合教育センター701会議室
- 3 出席者 日浦直美会長、小野セレスタ摩耶委員、齋藤優子委員、田辺理恵委員、
谷村誠委員、中後和子委員、春木康輔委員、人羅亜矢子委員、
渡邊隆信委員
- ※小野委員、田辺委員、谷村委員はリモート参加
- 4 議 題 (1) 市立幼稚園の役割及びあり方に関する基本的な方向性について
(2) 長期的な観点からの市立幼稚園のあり方について

5 議事要旨

今後の幼児教育・保育における市立幼稚園のあり方の検討にあたり、市立幼稚園の役割及びあり方に関する基本的な方向性並びに長期的な観点からの市立幼稚園のあり方について意見をいただいた。

1 再編・統合による集団保育の確保、少子化への対応

(主な委員意見)

- ・平成7年7月の審議会報告書は阪神淡路大震災が起こった年であり、各委員に教育委員会が一任してほしいと持って回られてとりまとめられた経緯がある。「市街地で園児数が20名以下」となっているが、当時の市立幼稚園は1年保育がほとんどで2年保育をやらせてほしいという意見であった。当時は5歳児クラスについてだったということ念頭に考えていただきたい。現在はほとんどが2年保育で一部が3年保育を行っており、当時の20人を持ち出すのはいかなものか。当時の考えを活かすのであれば4歳と5歳で40人以下ということになるのではないか。
- ・資料を確認すると、3年保育を実施している園はある程度ニーズがある。保護者のアンケートでも「2年しか行けないから公立をあきらめる」という保護者の声もあったと思う。ある程度一定の規模を保つのは必要と思うが、私立では経営が破綻する状況であっても、逆に公立だからこそやらなければならない部分もあると思う。費用面とのバランスの問題だが、3年保育を前提で考えて進めていけば保護者の動向も変わるのではないか。
- ・保育には一定の適正な人数が要ると思うが、一方で公立だからできる施設の運営というのがあると思うので、数を杓子定規に当てはめるのは難しいかと思う。
- ・人数が少ないと単に子どもたちが楽しくないといったことだけではなく、教育・保育の内容的にも集団でいることの意味が薄れてしまう。集団保育の意義を強調するととも

に、少子化への対応ということを念頭に検討していくべきだと思う。

2 公立としての役割、拠点としての機能 (1) 拠点としての機能

(主な委員意見)

- ・特別支援の子どもが公立幼稚園で手厚い加配で保育を受けられるのは保護者にとってありがたいことだとは思いますが、私立幼稚園でもどれだけたくさんの特別支援の子どもを受け入れているか知られていないところがあると思う。神戸市私立幼稚園連盟事務局でも、発達障害の専門の先生が検査や診断、そして保護者、園への助言、施設の紹介など手厚い対応を行っており、1年間で400人以上の子どもたちを見ている。特別支援の子どもを受け入れるための補助金はびっくりするくらい少額である。神戸市から受けるのは2・3号子どものすこやか保育だが、非常にハードルが高い。また、認定こども園も私学助成の幼稚園も県から補助を受けるが、対象の子どもが1人ならば年間約40万円で月3万円程度。このような手当しかなく、それ以外の加配に要する費用は全部園で負担している。何とか予算をねん出して環境を整備してやっているがどこまで私学の力でできるのか。これ以上財政的にも加配を抱えることができず、断らざるを得ないという実態を知らずに、単に私学が受け入れてくれないという偏った見方をされているのは心外である。私学に行った子どもが手厚く受け入れられず、公立に行った子どもが手厚いというのは、同じ特別支援の状況で許されるのか、平等なのだろうかと思う。毎年要望しているがかなっていない。また、卒園生や弟妹以外の子どもも今は十分入園できる状況であり、私学の園でも空き教室があるような状態である。
- ・小学校では特別支援が必要な子がクラスに3人いるという報道があるが、幼稚園ではグレーな子はもっている。そういう子どもが小学校に行くための幼保小の連携が各区でどれだけできているか。教育委員会が小学校と未就学の施設との連携を本気でしたいのであれば、公立幼稚園が旗振り役となって、各区あるいは中学校区で真剣にやっていただきたい。
- ・「地域の子育て家庭に直接支援する事業」というのは児童館や地域の幼稚園なども行っているのですが、それよりも違う支援を行うほうが良いのではないかと。
- ・バックアップ、スーパーバイズの点について、話の流れを聞いていると若干、特別支援教育に偏ってしまっているのが気になる。全ての子どもを、というところをいかにうまく出していかかが非常に大事だと思う。
- ・市立幼稚園に来てもらって研修をするだけではなく、職員を派遣して特別支援教育も含めて現場の困り度に対応していくことで、全ての子どもに対応するというのも大事ではないか。
- ・幼小接続は非常に大事だが、どの自治体でも全然できていないまま進んでいる。これがしっかりできれば、かなりすごいことと思うので、やるのであれば他の自治体はない

ようなことを、しっかりやらなければならない。

- ・地域の子育て家庭を直接支援するという点については、特に2年保育で入園までの1年をどうしようかという方が一番お困りかと思うが、3年保育によって解決していくのであれば、もう少し様相も変わってくるかと思う。
- ・特別な支援が必要な子どもに議論が集中しているが、それだけではないというところは付け加えるべきと思う。

2 公立としての役割、拠点としての機能 (2) 教育機会の保障面の役割

(主な委員意見)

- ・市立幼稚園で3年保育を実施しているのは9園あるが、区によっては1園もない区もある。子どもの発達にとっては3年保育が望ましいと思うので、そういった機会が全て市民に平等に与えられることが公立園としては必要かと思う。そのため、この資料の書き方では曖昧であり、3年保育を受けたい人は私立に行ってくださいとも取れる。
- ・2・3号であれば、第1希望から第5希望ぐらいまで書いて第1希望に行けない子どもも山ほどいる。兄弟が同じ保育園に行けない場合もある。同じ市民の中でそういう子どもがいるわけなので、公立幼稚園なら全員が希望通り就園したらよいというのは違う。保育園でも車で送迎しているし、2・3号のように第1希望に入れなかった場合は第2希望で行きましょうとするのも一つの案かと思う。
- ・こんな少ない園児数で公立幼稚園を運営していることは、他都市から見れば不思議な状況だ。3年保育について議論する前にやるべき統廃合をきちんとし、それから3年保育の議論を出されるべきだと思う。
- ・全園での3年保育の実施を希望する声があり、将来的には目指すのが望ましいと思うが、例えば灘区や垂水区は全く3年保育をしておらず、希望の出しようもない。また、区内に3年保育の園があっても園区が違うため通えないケースもある。公立で3年保育を希望できる環境をすべての保護者・市民に提供すべきだと思う。園区を柔軟にすることも含め、保護者の不安解消の点からも踏み込んで書いたほうが良い。
- ・集団保育ということを考えると一定の統廃合はやむを得ないかと思うが、そのときに、公私と考えたとき公立に行けるという選択肢を広げるという観点では、今まで全く議論されてこなかったが、公立の1号枠を一定確保するという視点で公立の認定こども園化を俎上に上げた方がよいのではないか。
- ・確かに保育の無償化が実現したが、私立では例えば制服代や行事費などが公立よりも負担だということがハードルになっているのであれば、小学校の就学援助のように一定の所得に対して補助を出すような形で、私立の幼稚園に通いやすくするやり方もあるのではないか。
- ・保育の無償化、預かり保育、3歳以上の子どもの保育は幼児教育と呼ぶというような動

きの中で、利用する保護者は、公・私の違いや幼稚園・保育所・認定こども園の違いという線引きがなくなってきて、とにかく自分の子どもを安全に育ててくれる場所として捉えているという動きがあると感じる。

- ・保護者の意見を聞くと、公立は2年保育だから諦めたとか、4歳で入園するまで家庭内でもやもやしたとか、悲しいような取りこぼしの状況が発生している。園児の数も少ない中で遊ぶとなると悲しいと思うので、やはりある程度の人数があつての保育ということは必要と思う。しかし拠点化としてその地区に幼稚園が無いと、どこに行ってもいいか分からないとか取りこぼしがでてくるかもしれないので、人数が少ない園を全て閉園するのではなく、サテライト拠点として残したうえで、この園に申し込んだら、その園から他の園まで皆で行って3年保育で集団保育を受けられるようなバックアップ的な拠点としての残し方が必要になってくるのではないかと思う。そうした募集をして人数が集まるか見極めた上で、統廃合やサテライト拠点化を検討していただきたい。
- ・幼保や公私の連携でいうと、からと幼稚園など人数が非常に少ないが、横にあるからと保育所はまとまった人数があるというようなどころもある。幼保のニーズを見極めながら幼稚園の施設を保育所として一緒に使うような、地区のニーズをいろいろ考えながら移行していくのも考え方としてあるのではないか。
- ・幼稚園に通わせていても、パートに出たいという声も多く、ある程度、預かり保育で長く預けられる方が良いという声もあるので、認定こども園化するとなるとそういうメリットはある。幼稚園が認定こども園になること自体を特に意識している人は少ないと思う。公立に行きたいということで公立幼稚園を選ぶ保護者もいるが、地区の近くで預けられるところをまず探す保護者が多いと思う。次に、働きに出られる人ならば保育所、認定こども園となり、少しゆっくり家庭で見たいという人が幼稚園という選択が多いのではないかと思う。
- ・保護者の立場から言うと公立幼稚園にこだわるということではなく、その家庭に応じて使いやすく、また、子どもにとって少人数がよいと思える保護者や多いほうが良いという保護者もいるだろうし、そうした思いを重視して選ばれているということだろうと思う。
- ・公立の1号認定枠を保障するという意味では、認定こども園化は一つの手段だとは思いますが、子ども・子育て会議では、公立保育所が調整弁になるという前提のもとに計画が進んできた流れがある。仮に公立の認定こども園を作ることになったとしても、調整弁である前提で議論をしていかなければならないし、結果的にまとまった数が認定こども園に移行する状況にはならないだろうと思う。
- ・以前から3年保育の議論はあったが、結果的に全園で実施するに至っていない。人口の動向をみたときに、まずはどう考えても、この園はもう統廃合の対象だという整理を先にしてしまうほうがよいのではないか。

- ・サテライト型保育所を運営している。小規模で予算がかからないイメージがあるかもしれないが、結構コストがかかる。結果的に想像している以上にコストがかかるため、試算をしたうえで議論をする方が良いのではないかと。

3 長期的な観点からの市立幼稚園のあり方

(主な委員意見)

- ・北区・西区はかなり広いので園バスなども含めて私立でカバーができてきているのか、インフラとしてどうしても残さなければならない公立の園があるのかが気になったのと、無償化はされたが、私立は制服代などその他の雑費が結構高いという声を聞く。その点から公立を選ばれる方もいると思う。確かに数は絞っていくべきだと思うが、仕事と家庭とのバランスで公立を選ばれる方もいるため、その選択肢がなくなってしまうのはよくないと思う。
- ・私立幼稚園は建学の精神に基づいて幼児教育を行ってきた。文科省が決めている教育要領プラスアルファでいろんなことをしている園があり、それぞれの園ではしっかりとした目的、教育理念に基づいて行っており、そのために費用がかかってくる。その費用についても、入園当初の説明時に明示し納得いただいて徴収している。制服などが高いという意見があったが、行政からも対象は少ないが補助の仕組みはある。それら含めて保護者は公私幼保、認定こども園を含めて、選ぶ時代に入ってきている。
- ・3年保育は子どもにとって必要であり、認定こども園であれば1歳、2歳から親以外の中で大きく成長することも分かっている。新制度に入るときに、公立幼稚園も含めて全てこども家庭局に移し、こども家庭局で子どもに関することを一体的にやるべきだといったが、かなわなかった。神戸の子どものこと、親のことを一番に考えることが大事だと思う。行政の壁などで親や子どもが不利益をこうむることは、一番よくないことだ。
- ・園区の見直しの問題、区ごとの特性を分かった上での統廃合の問題、また、今まで議論に出てこなかった公立の認定こども園の話題も出てきており、これをどこまで明確に書くのか気になる。その上に拠点化という話が出てくると感じる。やはり公立幼稚園の話は、教育委員会内だけでなく、こども家庭局と一緒に話をしていかないとどうにもならないのではないかと。いろいろな流れがあるかと思うが、もうそんなことを言っておれないのではないかと率直に思う。
- ・市長部局との連携という意味では、極端な結論かもしれないが、こども家庭局の方へ所管を移した方がいいのではないかと。障害児支援についても、児童福祉法に変わっているにもかかわらず、こども家庭局管轄になっていない。ともすれば障害児は子どもではないと見えてしまうようなことになっている。教育も福祉の土台があって成立するという意味からもこども家庭局への移管を一度検討したらどうか。
- ・同じような検討事項で複数の市と関わっているが、長期的に考える上では、やはり市長

部局の方で検討しているところが多いので、神戸市でも検討していただきたい。

- ・バックアップ・スーパーバイズの事業拠点というような役割に関して、文科省に結構、研修費などの予算がついている。こども家庭局に移管されることで、その予算が確保できないことにならないよう留意し、基本的にはこども家庭局で管轄をした方がよいと思っている。
- ・公立幼稚園の保護者の意見で、近いから選んでとか2年保育は悲しいとかあったが、働く親からすれば限られた中から選ぶしかない。私自身、近くに公立幼稚園で通えるところがなく、その時点でもう平等ではないと思っている。皆が思っている平等とはどういうことを言っているのだろうかと思う。家から通える公立・私立幼稚園、公立・私立保育園が全部あるかといえないし、仕事はもう決まっている状況だと、時間的に入れられるところに行くしかない。
- ・本当に予算が限られているのであれば、人数が少ないところは、何人以下で閉めるとはっきり決めてしまわないと、個々の事情や条件を考えれば考えるほど閉園しにくくなる。それを決めた上で、余った費用で私立の幼稚園に通っている子どもに対して悩みがあるのをいろいろな先生がサポートしていくことに力を入れた方が、子どもの平等という点では良いのではないかと思う。